

ヨット体験を利用して海洋プラスチック問題を伝え・学ぶ

■ 事業実績と成果（協働3団体）

- シニア海のサロンとヨット体験：高砂地区まちづくり協議会参加者に播磨灘でヨット体験をしながら北前船と同じ原理で動くことを操船体験したり海上交通法等を学習。また工楽松右衛門が築港した高砂港口と加古川と接する「東風の請波止」が土木関連の遺構認定されたことを紹介。ヨットキャビンでの海のサロンを開催、海洋マイクロプラスチックの現状をテキストで学習しながら意見交換をしました。参加者とスタッフ21名
- 支援の必要な人のヨット体験：高砂市社会福祉協議会とで障がい児にヨット体験、保護者に海洋マイクロプラスチックの実情を伝える。目の不自由な子どもには頬や髪に受ける風からヨットが進む方向を決め自身で舵を操作しセーリング体験をして貰う。我々もブランドセーリングを経験させて頂く。大人の障がい者にはキャビン見学をして貰いました。社協職員と小中学生対象の既存行事に向島公園砂浜に漂着するマイクロプラスチックを拾い集めモノづくりに使いながら海の環境を学べる取り組みを取入れる等の意見交換した。参加者とスタッフ50名
- ガールスカウトヨットと海の環境を伝え考える体験：同高砂団の小中学生にヨット操船体験と子ども海のサロンでマイクロプラスチックの学習をする。ヨットが風で動く原理・海象・コンパスを使い操船体験をして貰う。指導者との意見交換も多く、プランクトンネットを利用したマイクロプラスチックや海の微生物の採取についてはこのガールスカウトで試行した経緯もある。参加者とスタッフ21名
- たかさご万灯祭参加の外来セーラーに海の環境を伝える：たかさご万灯祭参加のセーラーに海の環境テキストを配布して海洋マイクロプラスチックの現状や海洋ごみ問題を「伝える」。昨年はヨットレースの艇長会議でレースセーラーとでテント座学を実施したが今年はレース中止のためテキスト配布とした。参加者とスタッフ65名

■ 継続・進展

3年間の事業助成支援を受けたヨット体験、海の環境を学ぶ、郷土の歴史に触れるプログラムのアップデート。

- 今期は小学中学男女3名が定期学習に参加されたので定期学習のプログラム（ヨット操船教本、海象等のデータ記載レポートフォーマット）等を再整理した。5回を終えた総括では小中学生からヨットで船酔いするが続けたいとの意見、保護者からは進級で忙しくなるが広く浅くで良いので体験学習の継続を希望するとの意見を頂く。
- 高砂市観光交流ビューロー協働の「海のサロンとヨット体験」は今期に入り参加応募者が増えてきた。工楽松右衛門旧宅の見学来高者にヨット体験を提供、ヨット操船等の体験しながら、郷土の歴史や海の文化に触れて貰い海の環境テキストで環境問題を考えて頂くメニューである。「環境を観光に」環境を観光資源にする基本コンセプトをブラッシュアップしながら、地域貢献の一助となるよう継続したい。
- 東播磨県民局環境課はヨット体験と海の環境学習をネーミング化され継続実施、理科講師を工楽松右衛門旧宅の奥座敷に招き車座環境教室を開く。参加者は旧宅見学では外板塀が江戸時代の高瀬舟底板を再利用していること等に触れられる。まさにSDGsの先取りを江戸時代に成しているなどを現地・現物で知る。地元団体や行政組織等とで播磨灘等の自然を含め周辺にあるものを工夫、活用していきます。

■ 活動の記録写真（ シニア 支援を必要な人 ガールスカウト たかさご万灯祭セーラーとの活動）

